

令和元年度沖縄振興審議会
文化観光スポーツ部会 議事要旨 (10/29 更新)

第 1 回文化観光スポーツ部会 頁 2

第 2 回文化観光スポーツ部会 頁 3-11

第 3 回文化観光スポーツ部会 頁 12-15

令和元年度 沖縄県振興審議会
第1回文化観光スポーツ部会 議事要旨

令和元年8月9日(金) 14:00~16:30

議題

【沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）当総点検報告書（素案） 第2章 沖縄振興の現状と課題について（文化観光スポーツ部会関連）】について

- 「P50〈県民意識調査〉質問項目：県民が文化芸術にふれる機会が増加していること」について、この調査結果に年齢別も載せるべきでないか。年齢別を出すと10年後の後々が見える。
- P49にしまくとつばの記載があるが、しまくとつばといっても、地域ごとに方言があり、綺麗なしまくとつばや汚いしまくとつばもある。そういったものは、どこで触れあえるのか、例えば地域に戻った場合に、そういった場所があるのか。そこらへんの基準というものを少し示したほうがよい。
- スポーツアイランド沖縄という大きな看板を出しているのに、第2章にもスポーツについて触れるよう目次に追加してほしい。
- 一次振計から三次振計の基本的なスローガン、その時のコンセプトをまとめた資料を作ってみてはどうか。P8記載の今後の沖縄をどのように作っていくかという6つの視点を考える上で参考になるのでは。
- P159の入域者数と観光収入の表があるが、ここにぜひ県のGDP5.4兆と県民所得を指標として入れるべきではないか。県の観光入域者数が伸びれば県のGDPも6兆円になるし6.5兆円になる。県民所得220万が基幹産業観光が伸びると250万が300万に増える。観光が伸びて県のGDPと県民所得が伸びなかったら、それは基幹産業とは言えない。
- P8~10で今後の沖縄振興の基本的な考え方の6点の中の5点目にSDGsについて新しい視点が入ってきていて、グローバル化の進展や第4次産業革命の進展を産業の振興に生かす記載もある。ただ、IoTやAIの進展によって、国民、世界を含めライフスタイルが変わると言われている。そうした中で沖縄の振興をどう考えていくかという視点は、従来の海洋島嶼だとか、米軍基地、人口減少うんぬんと匹敵するぐらいの社会変化だと言える。よって、産業振興の視点だけではなくて大きな時代の流れの中で、次の沖縄振興の方向性は、産業だけではなくて教育にも福祉にも医療にもどう生かすかといった視点も入れるべきではないでしょうか。

以上

令和元年度 沖縄県振興審議会
第2回文化観光スポーツ部会 議事要旨

令和元年9月3日(火) 13:30~15:30

議題

【沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)当総点検報告書(素案) 第3章 基本施策の推進による成果と課題及びその対策(文化観光スポーツ部会関連)】について

【平田副部会長】

- 10ページ(資料8)ですが、芸大がキャリア支援をかなり充実させている面では評価が高いと思いますが、本来アートを目指している人たちが、就職だけではなく自分で起業するとか、自分自身のセルフマネジメントをすることも今後必要な分野だと強く思います。
- 「起業を含む」と書いていますが、その部分の数値化できているのか、もし起業を含むのであれば、文化とは、文化の仕事だけではなく、いわゆる病院であったりとか、あるいは自分自身が福祉関係とつながっていたりとか、これからどんどん文化の役割は、社会的課題に対して必要とされる部分が広がってくるのではないかと強く思っています。そういう視点を学生たちにどうしっかりと気づきを与えていけるか、芸大の大きな役割ではないかと思えます。
- スポーツは1点だけ、380ページの38行目です。「また、芝生管理の専門的知識を有する人材を育成し、グラウンド芝生環境の向上を図るなど、スポーツ・レクリエーション環境の整備及びスポーツコンベンションに対応した施設の充実を図ったことで、サッカーキャンプの件数も過去最高となった」と。これはかなり重要なポイントだと考えています。つまり人材育成というところが本当に実を結んだ一つの事例だと思いますので、こういったところは注目をすべきだなと。
- しまんちゅ養成講座の立ち上げのころに私もかかわったことがありますけれども、これが本当に機能していて、そういった取り組みの成功事例が、ほかの進展遅れのところに対して、何かの示唆に富んだものがあるのではないかなと思うわけです。結論から言うならば、それをぎ回せばエンジンになるような団体あるいはちゃんとしたコーディネーターのような企業なり専門家がいたのが大きいポイントだと思います。
- そういうカリキュラムを組んだおかげで、スポーツコンベンションの部分で言うと、サッカーキャンプの件数が増えたのは大きなテーマですし、読谷でも今度ラグビーのキャンプもありますけど、そういうところに影響が出ていると思いますので、成功事例を大きくクローズアップして、なぜ成功したのかも評価として見ていくと、恐らく課題抽出で終わらずに、成功事例に光を当てていく作業も必要だなということを感じました。

【大城専門委員】

- 芸能関係ですが、芸の継承をしていくということで、例えば伝統組踊保存会などは次代を担う方々に伝承者として頑張ってもらっていますが、内部を見てみると随分と高齢の方々が伝承者として保存会で認められていて、高齢なものですからなかなか舞台に立つチャンスがないようでして、組踊をする方々が非常に増えている一方で、事業の展開の仕方とか、伝承者の認定といいますか、そういうところで、人数だけたくさんいるけど、その中で素晴らしい演技ができるとは言えないのではないかと、内部の方のお話を聞くとそういうことがあり、今年はまだ組踊300年なので、そういうところでチェックしてもらおうほうがいいのではないかとありました。
- ですから、伝統芸能の継承がどうあればうまく展開していくのかというところを考えておかなければいけないと思います。以上です。

【富田専門委員】

- 全体を伺って思ったことは、これは計画案ではありますけれども、ここにどれだけ実施できる具体的なアクションを盛り込めるのかがとても大事ではないかと思いました。
- 例えば今大城先生からもありましたが、組踊が今年こんなに華やかになっているのは、具体的にやはり芸大ができたことと、国立劇場ができたことがあって、爆発的に公演の数も増えましたし、それから人材育成が本当に具体的に進んだということもあるかと思います。
- もちろん就職率が上がることも大変重要なことでありますし、それぞれのアートに携わる皆さんが起業することも大切です。ただ、全ての人材をそこで面倒を見ることは難しいかと思しますので、例えば理解のある企業の皆さんは県が認定をすとか、パトロン企業とかというステッカーをあげるとか、国税だと難しいかもしれないですけど、県の法人税とかの軽減とか、具体的な取り組みが必要ではないかと思いました。
- もう1つ、しまくとぅばに関してもさまざまな取り組みがなされていますけれども、日常生活で私たちはしまくとぅばに触れる機会が大変少なくなっていますので、舞台の中でしかしまくとぅばは残らないのではないかという危機感もありますけど、イベント的に月に1回とか年に1回しまくとぅばに触れるよりは、日常生活の中にたくさんのしまくとぅばがある中に私たちが身を置くと。その中でしまくとぅばのよさに気づき、強制的にというよりは、日常生活の中で自然に身についていくようなことはどうすればできるのかなと思っています。
- 教育の分野もそうですけれども、ラジオ体操が必ず全員できるように、沖縄県民全員かぎやで風は絶対に踊れますとか、かぎやで風はそらで絶対に歌えますとかというようなことを教育の中でも取り入れる取り組みが必要ではないかと思いました。

【原田専門委員】

- 資料8の検証シートの20ページについてコメントさせていただきます。スポーツコンベンションの県内参加者数は、平成29年の時点で令和3年度の目標値を超えたということで、非常にいい成果を出している。その裏にはスポーツコミッション沖縄をつくったと。私も設立にかかわらせていただきましたけど、非常に大きな成果を上げているということで、アウターの政策ですね。すなわち県外から人を呼び込んで、経済の活性化を起こすという部分は非常にうまくいっている感じがします。
- その一方、インナーの政策といいますが、沖縄県のスポーツ振興は、スポーツ実施率とか総合順位とかを見ても、まだまだ低い状況にあります。
- 今内閣府が中心になってまち・ひと・しごと創生交付金というのをを出しておりまして、いわゆる総合戦略を国で立てています。それが各都道府県にこれから下りてきますが、次年度は1,150億円が分配されます。その中でこしの目玉にしようとスポーツ庁と一緒に動いているのがスポーツ健康まちづくりです。だからスポーツだけでなく、まちづくりという非常に包括的な視点から見ようと。
- そうなってきましたと、その中には官民協働の話とか、地域間連携とか、政策間連携とか、あるいは事業推進主体をこれからどうするか。総合型地域スポーツクラブとか、スポーツ推進員とか、実はかなり古い政策になりまして、うまくいっていない事例も多いので、例えば総合型を事業体にして、みずからお金を稼いで指定管理までやってしまうと、そういう稼げる組織に変えていくのが今後の国の政策の一つにするように今努力しております。
- 沖縄県もアウターは比較的うまくいっていますが、インナーをこれからやっていく、そういう部分は非常に重要ではないかと感じた次第です。以上です。

【石原専門委員】

- 全体を通して感じたことは、データをどう収集されているかがよくわからないので、明記してほしいというのが1点と、総点検報告書素案の後ろに、成果指標を一覧に出して下さっていていいなと思って見ましたが、まださらっと見ただけですけど、この指標でいいのかという点と、足りないところはないのかという見方で見ているところです。データに関してはこの2点です。
- 空手に関してはすごいグッドコンテンツになる可能性があって、例えば360ページに、県外・海外から空手関係者がたくさん来ている状況の数値が出ています。その数値指標だけではなくて、来てどれぐらい滞在して下さっているのか、関係者以外で、私みたいに空手は全然関係ないけど、沖縄に来て空手を1週間で覚えられたらいいなみたいな人も来るようになればとてもグッドコンテンツになるのではないかと。マーケティング戦略というか、ターゲットを絞ってデータをきちんととりながら見ていく戦略がこれからもっと必要ではないかなと。数だけではなくてもっと中身がわかるようなデータのとり方をしたほうがいいのかと思っています。
- スポーツに関して、資料8の20ページ、特に私はコーチのところでいろいろ調査していますけれども、スポーツの実施率が成人の週に1回しかないというのもそうですけど、子どもたちもそれ以前の問題で、体力も二極化していますし、スポーツの実施率も分かれています。小学校の前の幼稚園の時期からそうな

っているというデータが出ていまして、多分沖縄も同じ状況だろうと予測していますが、大事なことは、運動しようよと言ってあげられる指導者が必要で、そういう意味では、沖縄が安全・安心でみんなが健康になれるというベースになるので、指導者をどう育成するかのもっと具体的な対策が必要ではないかと。

- 特に沖縄の小学生は部活をします。部活を指導している指導者は、お父さん、お母さんが一生懸命されていますけど、ボランティアで仕方なくされていることが多いです。ちゃんと理論をわかって教えているケースがないことが多いので、全国的に同じ傾向ですけど、沖縄ならできるのではないかといつも思っていますが、少なくとも全員が資格を持てるような制度を県でつくってしまうとかすれば、もっと運動に親しめる子どもたちが育っているのではないかと考えています。

【ダルーズ専門委員】

- よく組踊とか琉球舞踊、歌劇を観賞する機会が少ないと書いてあって、一般県民も子どももだと思いますけど、354ページの11行にありますけど、皆さんは気づいているかもしれませんが、舞踊とか組踊は見る県民はいますが、空手を見に行こうという県民はほとんどいないです。
- なので、学校現場で、舞踊もそうですけど、空手を鑑賞すること、空手のすばらしさを見せること、これは空手だけではなくて芸能と組み合わせてもいいし、空手だけではだめかもしれないし、それを354ページに「組踊、琉球舞踊、琉球歌劇等の無形文化財を鑑賞する機会」、そこに「沖縄空手」を入れたらどうかと思っています。
- 357ページの40行に、「伝統文化の後継者が不足しているため」と書いてありますが、これは舞踊だけではなくて、県内に空手道場は350あるとはいえ、高齢の方が道場主になっていて、やはり次世代をどうするかと。ただ道場を運営するのではなくて、今のニーズに合った運営の仕方を考えていかないといけない。
- 大概は道場を運営して、それで飯を食っている。ではそれが悪いではなくて、恐らく舞踊道場の運営も空手道場の運営も一緒だと思います。どうやっていいものを売っていくか、いい社会貢献することを考えていかないといけないので、次世代である道場の経営をどうするかという支援は県でやっていただければと思っています。
- 空手のネットワークは1億3,000万人と言われている。これは少し私大げさとは思ってはいますが、6,000万人から1億人いるのは間違いないです。
- なので、この人たちをどうやって引っ張っていくのか。沖縄県内に空手関係者は7,000人ぐらいしか来てはいませんが、この夏、7月、8月だけで2,500人が来ています。空手のネットワークをもっとつくって、沖縄に効果が生み出せるような環境をつくっていただければと思います。

【佐野専門委員】

- 1点目は、指標の実績値などの数字の生データとは言いませんけど、定義とか計算式が知りたいと思います。結局、達成できなかった要因分析にもつながっていると思うので、その中身を開示していただければありがたいと思います。
- 2点目は、定量指標が多いのは政策を評価するときには当然だと思いますけれども、定性的なところの視点が欠けているのではないかと。確かに量を確保しなければいけない、量を達成しなければいけないものもあると思いますけれども、本来質を伴うべきというか、あるいは量が確保できなくても、質のところで前進があった、改善があったということであればいいのではないかとこのものもあると思います。
- 例えば今回ウチナンチュネットワークのところなども、数字はそこそこいいけどまだ達成できてないというところで、数字だけよりは、アイデンティティが強化されていくようなしっかりしたネットワークがつくれているのであれば、必ずしも人数が確保できていなくてもいいとか、各地に県人会があって、村人会があって、ちゃんとつながっているとか、そういうことも補足で説明できれば、多少数字が達成できていなかったとしても、十分県民の皆さんは評価をされるのではないかなと思うので、質と量の部分のバランスのとれた説明をしていこうが、県民の皆さんにとっても理解しやすいのではないかなと思いました。
- 3点目は、指標の達成状況と、次の課題の関係性がよく見えない。例えば先ほど生涯スポーツのところで、まだ達成できていないということで二極化、生涯スポーツする人、しない人、それから20代から40代までがなかなかスポーツしないとなっていますけれども、そういう分析がある中で、資料10の381ページの課題及び対策では、引き続き「機会創出を図り」となっています。
- でも、先ほどの検証シートで20代から40代までスポーツをしないとか、二極化されているときに、機会を創出することに一生懸命になっても、結局、結果はあまり変わらないのではないかなと思いますので、検証した結果と課題・対策のところ少し乖離があるように、今の記述では思います。
- 最後は私の担当の交流部分で、実は報告書の644ページ、5 多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指しての(4) 国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築、ここはまさに国際性を持った教育あるいは子どもたちを育成していくということで、国際理解教育が非常に関係する部分だと思います。
- ここは教育庁と一緒に管轄すると書かれていますので、もしかしたら教育庁の部会で議論されているのかもしれませんが、JICAが県と一緒に連携してやっている国際理解教育は、生徒に直接の部分だけではなくて、教員の皆さんを海外に派遣したりとか、ボランティアに県の方が現職で派遣されて、国際性を持った先生が戻ってきて学校の現場で教えるということもできていますけれども、今回の素案には全く触れられてなくて、少しもったいないなと思っています。

【與那嶺専門委員】

- 文化の継承にしても、世界との交流等にしても、やはり若い世代、次代を担う子どもたちから力を入れていくべきものが多いのではないかと感じております。
- 我々財団の事業等を御紹介させていただきたいのですが、毎年少数ではありますが12名程度を海外のウチナンチュとしての子どもたちを受け入れて、1年間大学とかに留学をさせております。まさにきのうから子どもたちが伊江島の家庭に2泊、ホームステイして、多分ウチナンチュのチムグクルといひますか、そういうものを味わってきよう帰ってくると期待しております。
- それと同じように、教育委員会がやっているような事業で行った子どもたちは、とてもかけがえのない経験をして帰ってきます。その部分の他部局との連携はどうなっているのかが気になったところでございます。
- 先ほどのしまくとぅばにしても、空手にしても、ある意味クリアしないといけない課題は、こういう連携なしにはできないのではないかと思います。例えば背景・要因の中にもあまり触れられてないところがあったものですから、少し気になったところでございます。以上です。

【小島専門委員】

- まず今、政治問題とかで香港とか韓国とかいろいろな問題が起こっている中で、一番観光がそういったものに影響されやすいのですけれども、影響されにくいものがスポーツであり、文化であり、そういったものではないかと思ひます。
- 海外の方もとても空手に興味を持って、沖縄に来られる方も多ひですし、しまくとぅばについても、沖縄に住んでいてもなかなかしまくとぅばに触れる機会もないので、伝統文化とあわせてしまくとぅばに触れるところ、あと空手もそうですけれども、伝統文化の継承にしてもそれを披露する場所も少ないです。
- 話が飛び飛びになりますけど、ナイトコンテンツについて最近触れる機会が多ひですけど、海外からの意見も多ひ。また、ナイトコンテンツを始めたのですが意見を聞かせてほしいというところで、いろいろ見に行かせていただひたりします。
- ただそれも内容はとてもよくて、頑張ってらっしゃるのもすごく伝わってきますけれども、お客さんはがらがらだったりします。あるところで満席のところがありました。そこのお客さんの内容を見ると、県内の方が多かったです。これはいいなと思ひました。海外の方、それから県民の方が一緒に楽しめるような、文化観光を推奨できるような施設ができればいいなと本当に思ひました。
- ただ自力走行するとか、そういった部分では非常に大変だと思ひます。演者さんへの毎日のお給料とか会場費とかを考えたときに、いくら売らなければ引き合ひないんだろうと。数名しかいなかったりするわけです。
- 海外のお客さんもナイトコンテンツがない、夜行くところがないよと言って、そこをのぞいてみたけれども、1人、2人のところは非常に寂しいですね。その時点でもうこれはという感じで、二度と行かないみたいな感じになるわけです。
- だから、満席になるような披露する場所とか、そういったところで場所の提供、演者さんが毎日できるところ、それから空手も含めて触れられるようなところができるといいなと非常に今思ひています。

【前田専門委員】

- 私からは2点です。まず1つは、皆様からも出てましたけれども、数字の根拠がわかりづらいのがありまして、2つ言わせていただきます。
- まず資料8の20ページで、スポーツコンベンションの県内参加者数が目標達成となっていますが、多分ここはスポーツアイランド沖縄の健康・長寿のためのスポーツの部分と、あとスポーツコンベンションのコンベンションが何なのかわからなくなりました。
- 地元の方々にさせる、見る、地元の人たちがやる、楽しむ人がこれだけいましたなのか、キャンプに来た人たちを見に来た県内客のことなのかとか、よくわからなくなった。
- あともう1つはしまくとぅばですけど、私もしまくとぅばの達成率は何から来てるのかなと思ったのと、さっきどなたからも出てましたけど、目標値が挨拶程度話せる人の割合の挨拶程度というのはどのレベルをいうのだろうというのもよくわからなくて、「ハイサイ」をどのシチュエーションで言えば私は話せる人なんだろうかなと。なので、これだけは絶対県民誰でも言える、歌える方言みたいなものがあると、具体的にいいのかなと思いました。
- あと、地方によってもしまくとぅばが違うので、どれをもってこれだけしゃべれたと言えるのかも、何が基準値なのかがよくわからない。

【當山専門委員】

- 前田さんからもありましたけれども、しまくとぅばに関していくと、前田さん、我々ホテルは、ハイサイ、ハイタイ、これやりますか。みんなでまずは。実は20年前にうちのホテルでやったんです。浮きましたね。時代がついてきてなかったです。だから、そういう意味でいくと、教育やさまざまなものになっていますけれども、そろそろ具体的にしっかり啓蒙して、日常的に使っていくというアクションの指標になってもいいのかなという気がします。
- それから資料8の11ページ、指標が県博や美術館、国立劇場おきなわの入場者数になっています。指標としてこれはこれでいいのかなと思っています。この指標を増やすことがツーリズムの世界で文化ツーリズムに参加をした方々の指標になるので、ぜひ組踊を組み入れた商品の創製に次のステップとしてどんどん行って、目標の数字をどんどん高めていくことでいいと思います。
- それから20ページのスポーツアイランドです。成果指標の1から5がピンと来ないんです。大会の順位であったりとか、参加人数とか、施設の利用者数とかになっていますけれども、ツーリズムの観点からいくと、持続的な生涯スポーツとしてのライフスタイル化がとても重要なかなと、この指標で果たしていいのかなという気がしています。これはどちらかという競技スポーツに近いような指標になっているような気がします。
- 時速5キロのウォーキングであったり、トレッキングであったり、時速15キロの自転車であったり、参加型スポーツの指標としてツーリズムの世界でもとても重要な要素になってきていますから、そろそろそういうものも指標の中に入れていいのではないかと思います。

【東専門委員】

- 総点検を何のためにやっているかというのは、次期振計のためにやっていると思います。ですから、今、世の中の変化が激しいですから、企業では3年間の事業計画はつくりえない状態です。経営コンサルタントに行っても、事業計画をつくること自体が間違っていると言う人も今いますから、そういった部分では、10年前に策定された21世紀ビジョン、私もど真ん中にいましたので、別に総点検するのは絶対に無駄にはならないと思います。ただ次にどうつなげるかを常に意識して点検していかないといけないと思います。
- 100点で達成したものであっても、次期振計にはもう載せないものもあるでしょうし、もっと高度化しないといけないものもあるでしょうし、自走させてしまって外していくものもあるでしょう。
- また進展遅れの部分も、もう1回チャレンジして次の10年で本物にしていくものもあるでしょうし、時代の要請にそぐわなかったのもうこれはやめましょうというものも出てくると思います。
- ですから、達成したかどうかということと、次につなげるかどうかとは別問題だとみんな認識しないと、もちろん大切だけれども達成できてない、これは何かということを検証するのはとても重要なことだと思いますけど、達成したものが目標が低かったのかもしれないということが出てきますので、そういう意味では俯瞰的な目で見ていかないといけないと思います。
- 次に、恐らく6次振計ではSDGsであるとか、Society 5.0とか、またはデジタルの部分がたくさん出てくると思います。第5次の部分での断捨離で捨てていく部分も出てくるということも考えないと、積み上げていだけでは限られた予算と限られた人員の中でやっていくのは非常に厳しいと思います。

【下地部会長】

- データの根拠というのはなかなか資料を見せられるだけでは難しいなところがありますので、その根拠は別の形でこういう中身だというのがわかればいいなとまず思いました。
- 資料を見ていると、目標があって達成したとなってしまうと、もうこれで何か終わったような感じがしてしまって、実はもともとの目標の設定がどうだったのかは検証しないといけないのではないかと考えています。
- 例えば一つの例でいうと、11ページに県立博物館・美術館の入場者数の目標が50万人に対して、実績が50万4,000人で目標達成となっていますけど、首里城が200万人以上、美ら海水族館だと500万人以上で、この10年の沖縄の観光の大きな伸びという中で考えれば、県立美術館・博物館は、結果的に100万人を超えるぐらいになっていて初めて目標達成と言えるのではないかと、例えばそういうことも考えていかないと、基準年と目標年と現状の達成状況にあまり左右されないことも必要ではないかなと思いました。
- あと数字の件に関しては、確かに計画をつくるときに私も県にいて、とにかく定量的に示すことが大事だということで、数値目標をとにかく入場者数とか参加者数、そういうことをずっとやって、これがわかりやすい指標だと言ってきましてけれども、次の振計に向けては、量から質へ、量と質のバランスを考えたときには、先ほど各委員からもお話がありましたけれども、やはり質を意識した指標が、指標の中で明確に分かれるような、定性的な意味合いを含んだ指標が、目標値にしっかり見えるようになっていかないと

かなかわかりにくいのではないかなと。

- これまでなかった満足度とか、全然別の指標がこれからは必要になってくると思いますので、こういったところも次に向けては検討が必要ではないかなと思いました。

以上

令和元年度 沖縄県振興審議会
第3回文化観光スポーツ部会 議事要旨

令和元年9月12日(火) 15:00~17:00

議題

【沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)当総点検報告書(素案) 第3章 基本施策の推進による成果と課題及びその対策(文化観光スポーツ部会関連)】について

【平田副部長】

- 平成23、24年文化観光スポーツ部の立ち上げのときに、大体3つのパターンで進んでいこうと予想を立てた記憶があります。1つはムーブメント、次にブランディング、最後にスタイルだと。最初のムーブメントでプロモーションをかけて、お客さんたちにいっぱい来てくれて、今度はブランディングした沖縄というものをしっかりと提案して、お客さんの数は減るかもしれないけれども泊数が伸びているなど、最後はスタイルということで、800万人に減ったとしても、長期滞在する人たちが沖縄旅行だとか、例えば竹富島みたいに沖縄全体が入島料みたいな考え方を議論することも含めて、沖縄の観光スタイル、そこら辺が少し文言として読み切れなかった。
- 文化観光スポーツ部ができたおかげで、観光が文化やスポーツという面とすごくコラボしながら進んでいくと思います。一方で例えばスポーツキャンプでサッカーをキャンプ誘致しますと言うけれども、施設の管理は教育委員会がやっていますので、結局はスポーツを誘致すると言っているのは観光関係だけで、呼びたいところとあまり来てもらっては困る2つが相反する。それで守られたものもあると思います。文化に関しても、消費される文化と言われた時期もありましたから。
- 文化観光戦略を含めて、観光と文化がマッチングした形で、ジョイントした形でスピーディーにやるというのが、文化観光スポーツ部会が誕生した、ある意味大きな背景にあると思いますが、果たして文化観光スポーツ部ができて、実際に観光の分野における効果、それから課題みたいなことが本当になかったのかどうなのかということも、これを機にどこかで考える機会があれば、それをもとにして各市町村で、自分たちなりの機構改革が進むのではないかと考えたりもしています。

【富山専門委員】

- 資料10で言ったら54ページ、総点検報告書(素案)の458ページで、観光地形成促進地域への特に国税の投資税額控除の部分ですが、対象施設の中に、スポーツ・レクリエーションや、教養、休養、集会などの施設がありますけれども、大観光時代を迎えるについて、交流拠点であるホテルが対象になっていないという意味でいくと、特に県内資本ホテルは零細・中小が非常に多い中で、資金力のある県外、それと海外の大手が、今どんどん沖縄にホテル建設を始めておりますけれども、ここはやっぱり誰のための観光かという意味でいくと、県内資本のホテルの経営の強化を図る意味でも、ホテルを入れていただくと同時に、新設だけではなくて、リノベーションを含めてぜひ入れていただいて、投資減税の控除

の対象にさせていただくことはとても重要ではないかなと思っています。

- 特に対象施設で言ったら沖縄に優位性のないものがたくさんあります。アイススケート場や図書館などは、その地域でやるべきではないというも含めて、ぜひ優位性のあるなしをチョイスして、外す、そして新たに加えるという意味で、ホテルというものは観光拠点で重要だと思っています。

【前田専門委員】

- 今朝、沖縄県振興計画の別の委員会にも出てまして、その中で1人の委員の方から出たのが、やはりベーシックに、そもそもこの計画が何のためにあるかというところと言うと、沖縄県民が幸せになるためというか、幸せが向こう10年、または30年後、50年後、我々の子孫たちがどういうふうに幸せに暮らしているのかを忘れてはいけないということでした。

【當山専門委員】

- 世界に通用する観光人材の育成という部分ですけども、特にホテルのリアルな現場で言ったら、今は世界に通用する観光人材の誘致に変わってきています。台湾、韓国、香港、中国を含めて、語学教育を我々がするのではなくて、実はもう現場は優秀な人材を採用していく時代になってきています。そういう意味でいくと、国の施策の特定技能1号は始まりましたので、幸いにも特定技能1号というのはマルチタスク化がかなり実現しているところです。ぜひ新たな取り組みとして進めて、ひとつ指標としてそういう取り組みもあっていいのではないかと。

【小島専門委員】

- 海外からの修学旅行ですが、海外の学校は沖縄県内の学校との交流を望んでいます。観光地に来るというよりは、沖縄の学校との交流を望んで来られるのですが、交流先を探すのがすごく大変なんです。海外の修学旅行は中身が詰まってくるのが遅くて、受け入れる学校を探すのがすごく大変で、行事が結構詰まっているので、その中で交流授業を受け入れてくれというのが、2クラス以上になると非常に厳しいものがあって苦労している。海外の学校側も、修学旅行で人数が多い場合は早めに早めに日程を決めて交流先を探すとか、そういった部分の周知も必要かなと常々思っています。

【下地部会長】

- 海外からの依頼というのは大学にも結構あって、これは小中学校も一緒ですけども、従来のカリキュラムとこれをどう組み合わせるかというところで、課題がある。観光の効果というのは経済効果だけではなくて、異文化理解効果というのがものすごく大きい。全国的に見ると沖縄は徐々に増えてきているところではありますが、一部の学校の非常に意欲的な先生方に頼っているところがありますので、このあたりは組織的に県の教育庁や各市町村の教育委員会等とも、観光の効果としての異文化理解効果をどれだけ学校現場が納得してくれるかという、学校側に対する説明がより重要になるような感じがしています。

【渡嘉敷専門委員】

- 検証シート等に出てくる進展遅れとか、言葉では出ているけども、なぜ進展遅れなのか、どこ部分できてないのかが見えないという感じを受けました。そういうことが見えないので、将来の見通や課題がどういうふうに出てくるのかという疑問というか、見えない部分があるような感じがします。

【ダルズ専門委員】

- プロの通訳の人材育成の話があったので、もちろんプロの通訳とか案内士は非常に重要ですが、観光立県、また文化ということは、企業とかプロだけではなくて、県民をどうかかわらせることが重要じゃないかなと。県民向けの講習とか、県民だったらもっと文化を理解してそれを観光客に伝える。プロに任せるのではなくて、一般県民をどうかかわらせるかと。
- 特に空手の道場で外国人に紹介する道場の先生たちは、みんな60、70、80歳。範士クラス。その中で英語を話す人はほとんどいないです。それでも全く問題ないというのは、必ず道場には英語ができる門下生がいるか、お母さんがいるか、誰かがいてサポートしていくと。そういう支えられる一般県民の環境をどうつくっていくかということが、どこかに入っていればいいのかと。
- 海外の修学旅行に関して、学校の交流も重要ですが、せっかく沖縄には素晴らしい文化があって、その文化をコアにした修学旅行を目指してもいいのではないかなと。沖縄が誇るものを中心としたプログラムをこれから展開してもいいのではないかと思いました。

【佐野専門委員】

- 海外からの修学旅行は本当に異文化体験のいい機会として、日程を調整するだけではなくて、受け入れる学校の先生が、ちゃんとそれを異文化理解、国際理解体験にする。海外の学校も沖縄の学校の人たちも、異文化体験がちゃんとできる機会にするためには、先生には、どうすればそれができるかというある程度のスキルが必要です。
- 文化観光スポーツ部と教育庁と一緒に、国際理解教育や開発教育をやってきていますが、そういうところも引き続き推進して、先生を育てて、修学旅行に単に来るだけでなく、来てもらったら、先生と子どもたちにとっていい機会になるように進めていただきたいと思います。

【小島専門委員】

- 白タクの話が先ほど出ましたが、取り締まりだけではなくて、お客さんが望んでいることが、言語ができて運転ができる方です。ですので、人材育成という意味合いで、人手不足の中ですけど、運転する方自体が足りない中で、語学力もというのは高望みだと思いますが、そういう部分も力を入れて養成していただければ、語学力のあるドライバーは給料も高くなる。そうするとモチベーションのアップにもつながるので、そういった部分での助成もぜひ考えていただいて、養成していただければと思います。白タクを取り締まりだけではなく、そういった部分でもお願いできたらなと思いました。

【下地部会長】

- 資料8の42ページ、産業間連携の強化というところで、観光客一人当たりの土産品購入費と宿泊業における県産品利用状況というところが進展遅れという指摘がされています。観光の大きな課題に観光消費額を伸ばすことがある中で、滞在日数を大きく伸ばすのは現実的にはなかなか難しい中で、まだこの部分で少しずつ改善できる見込みはあるのではないかと思います。物産公社、畜産公社、文化振興会等々に入ってもらって、各外郭団体側から消費額を、特に土産、飲食、文化をどうやったら伸ばせるかという横の連携の会議をスタートしました。
- 県の中でも、今文化観光スポーツ部と農林水産部と商工部で横断的な意見交換をされていると聞いておりますので、現場サイドでも消費額を高めるための努力が必要だと思っています。これまでは物産公社とか、農林水産業との部分は結構されてきたと思いますけど、きょうは文化振興会に入ってもらって、文化をどう消費額に高めていくのかという議論も結構進みました。空手もその分野に入ると思いますが、進展遅れとなっている消費額をいかにこれから上向きにできるかというところは工夫が必要ではないかと思いました。

【當山専門委員】

- 観光土産、観光製造業という観点もものすごく重要で、単価だけではなくて、やはり沖縄はギフトです。メイドイン沖縄ですかという意味で言ったら、実は土産の約7割は本土産です。沖縄の土産屋さんの多くが仕入れ屋さんです。県のGDP、県民所得も含めて上げていくためには、沖縄でつくって、大きな販路が目の前にあるわけですから、自分たちでつくって自分たちで販路を拡大していくという部分も強調していただければ。

以上